

規制による弊害と規制緩和要望の内容

【具体的な規制緩和要望④】

ガスの種類を問わず、使用するガス（設備の変更を要するものを除く）を変更する際に、許可ではなく届け出としたい。
(届出時にガスの種類に応じて必要な安全対策を講じ、内容を記載する)

(処理能力 100 m³ /日未満の場合)

安全面の根拠

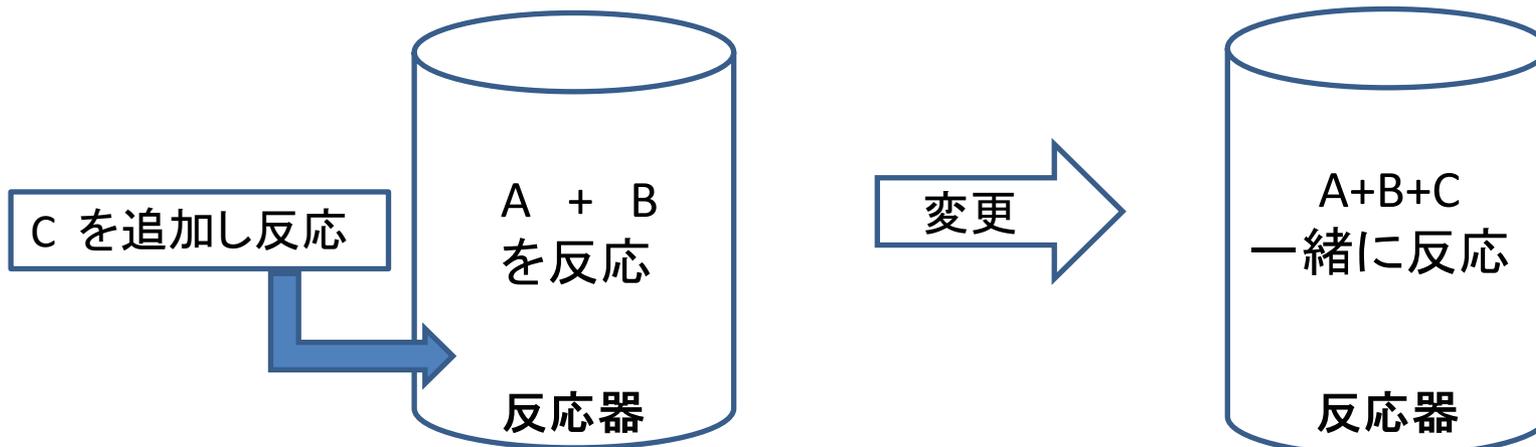
既存設備で、材質、寸法、形状、処理能力に変更はなくガス種の変更のみである

規制による弊害と規制緩和要望の内容

【具体的な規制緩和要望⑤】

研究開発では、最適ポイントを探索するため製造方法・条件等の変更を実施するが、この製造方法の変更を許可でなく届出にしたい。
(処理能力 $100\text{ m}^3/\text{日}$ 未満の場合)

現状 製造方法の変更で「許可」



安全面の根拠

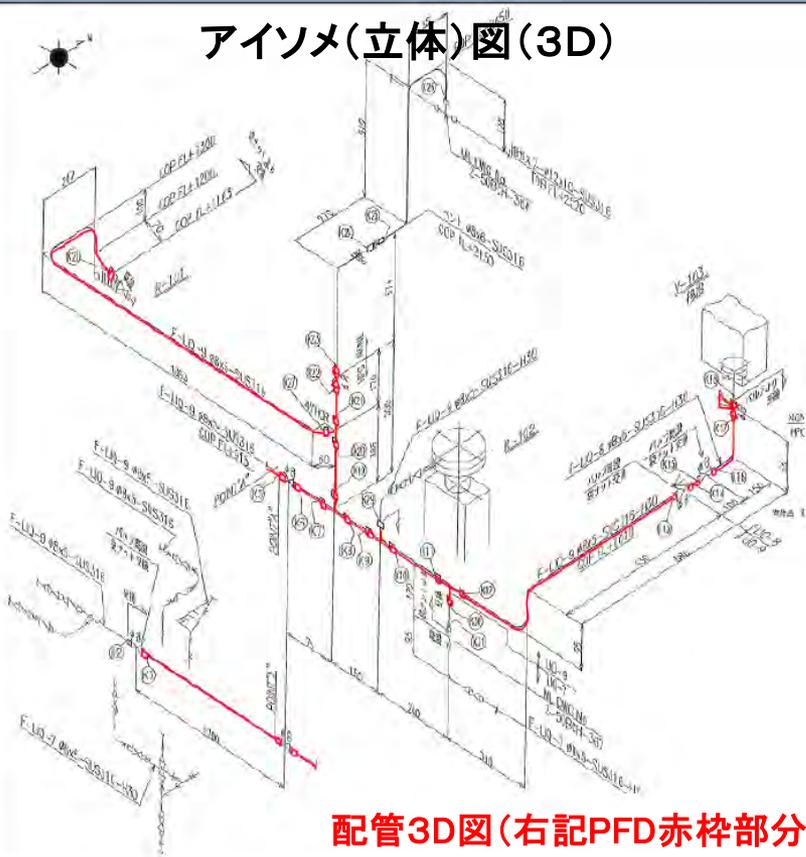
製造方法の変更であっても安全上のリスクは申請時と同じである。

規制による弊害と規制緩和要望の内容

【具体的な規制緩和要望⑥】 (処理能力100m³/日未満の場合)

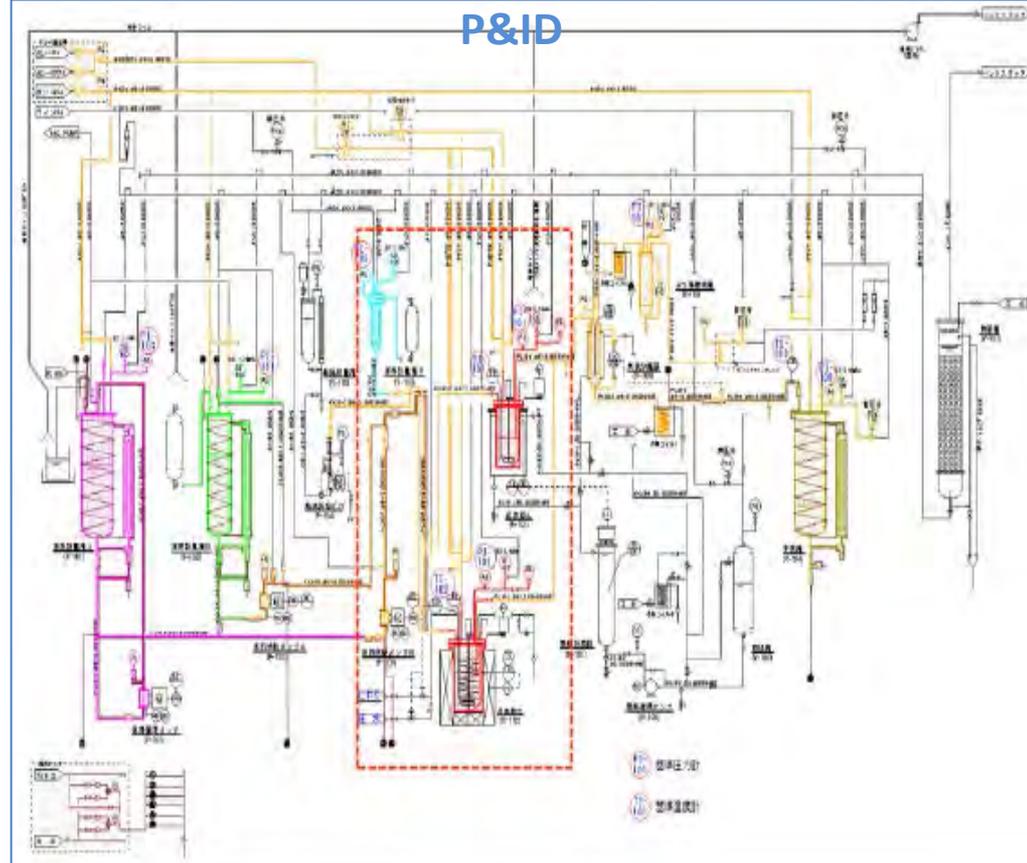
書類の簡素化：変更申請の際の配管図添付はアイソメ(立体)図(3D)で寸法も入れた図で労力が必要であり、P&IDとしてほしい

アイソメ(立体)図(3D)



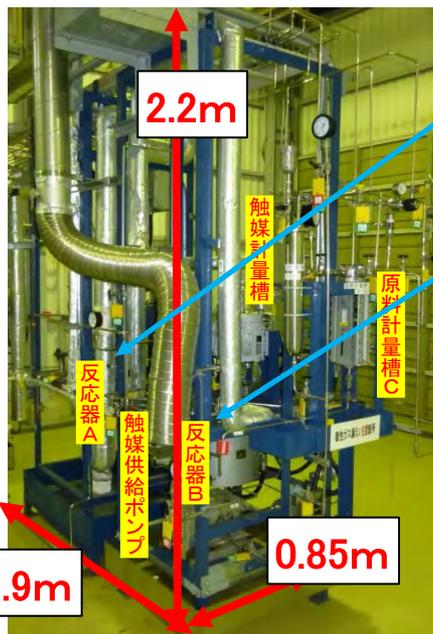
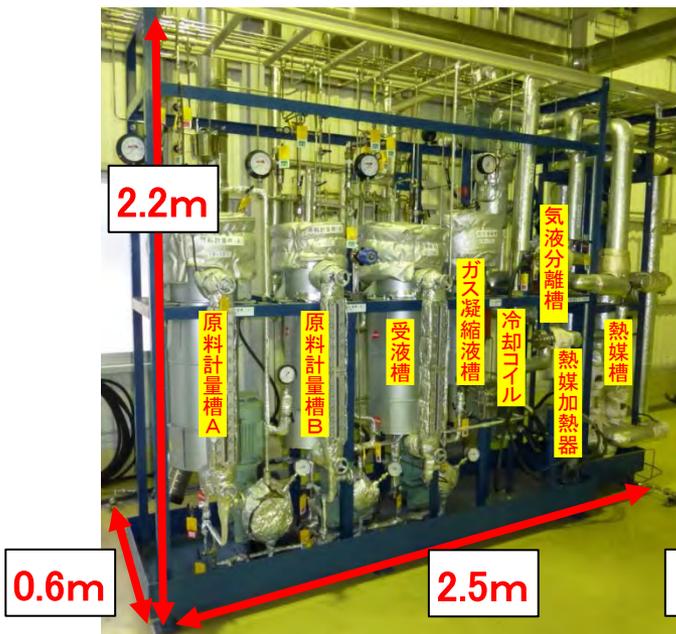
配管3D図(右記PFD赤枠部分)

P&ID



安全面の根拠

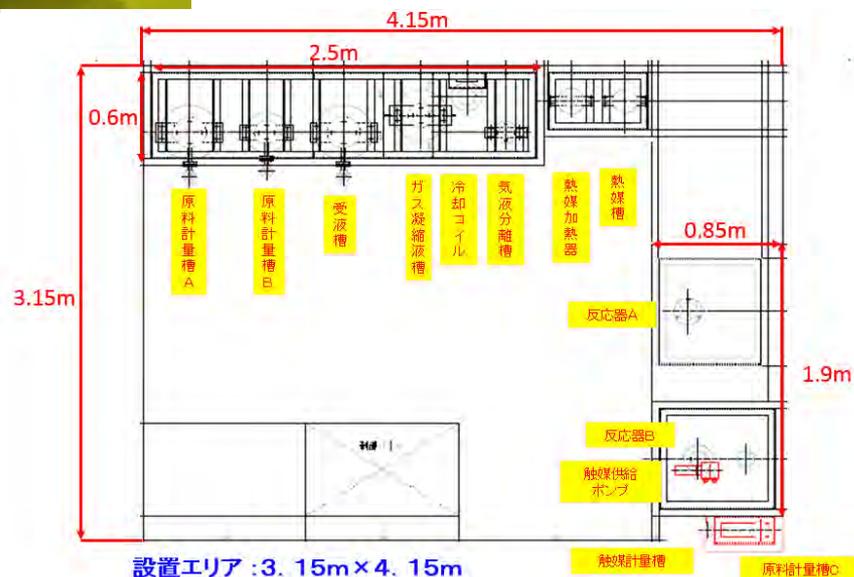
P & I Dで安全確保できる



【反応器A】
0.5L
(内径 65mm × 長さ 170mm)

【反応器B】
1.5L
(内径 100mm × 長さ 200mm)

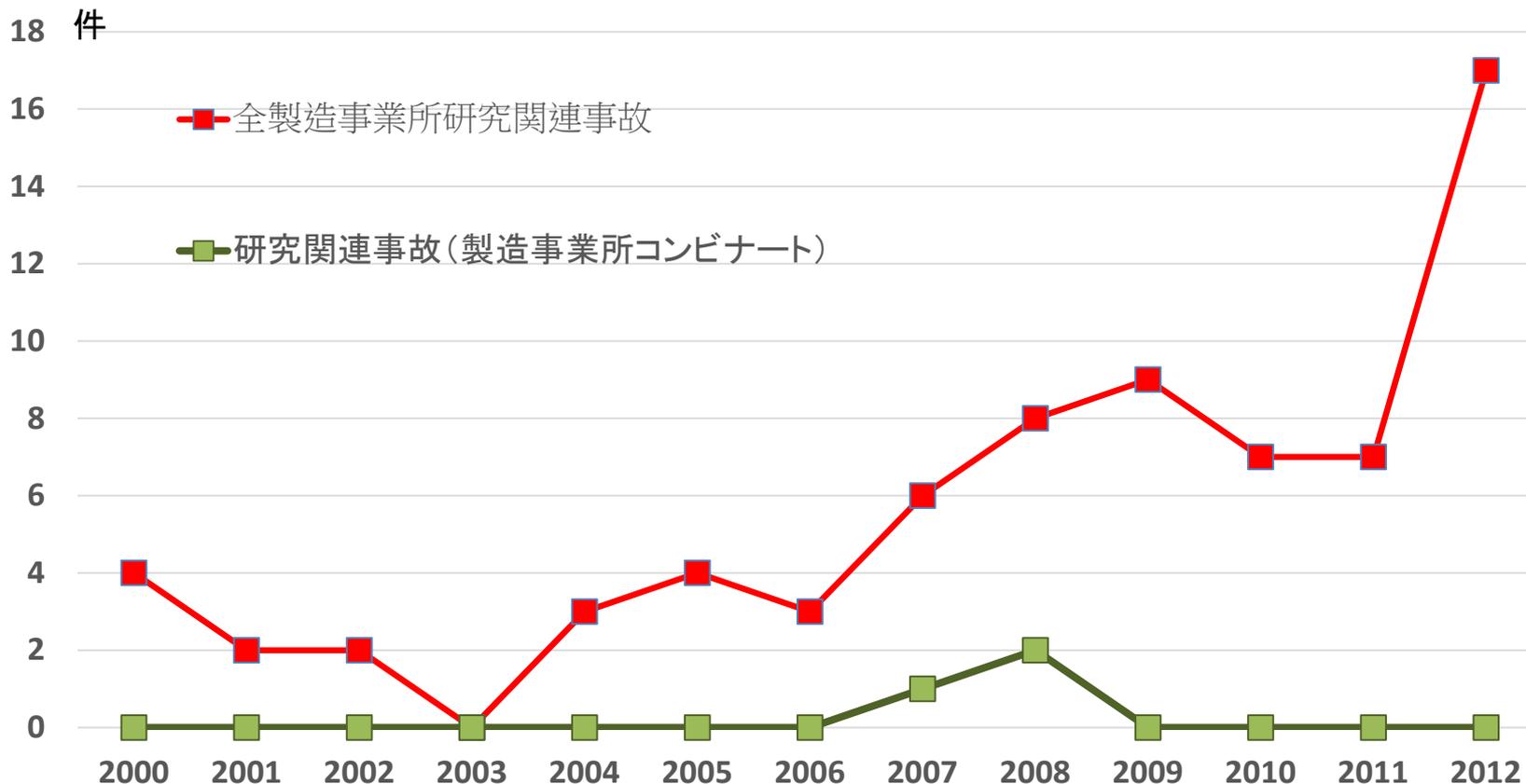
【配置図】



【最大処理量能力】

ガス1	: 32	m ³ / 日
ガス2	: 32	m ³ / 日
水	: 30	m ³ / 日
	94	m ³ / 日

研究関連事故件数



研究関連事故(コンビナート)の事故発生件数は、過去12年間で3件と少なく人的被害に及ぶ大きな事故は発生していない。